

2006年ファイナルタッチローカルルール

関東オープン連盟

関西オープン連盟

本年のファイナルタッチは関東・関西での分散開催となることを鑑み、適用するローカルルールについて以下のように規定する。

原則として日本タッチフットボール協会公認「タッチフットボール公式競技規則レベル2（中級）」を採用する。

但し、これまでのファイナルタッチ同様一部関東オープン連盟独自の規則を適用し、本年より新たに関西オープンローカルルールを一点追加する。（公式競技規則—P、148、スクリーメージキックにおける、レベルに応じた特例に関するローカルルール）

なお、試合中の判定、罰則等は担当審判に一任する。判定等の質問、質疑については主管団体の審判部と試合後協議すること。

公式競技規則—P, 7

第4章 装具

1、ユニフォーム ※1

同一チームの選手は、同一色で同一デザインのジャージーとパンツを着用せねばならない。

女子は膝丈のパンツ、スパッツが望ましい。

全ての選手は膝を完全に覆うサポーターを着用せねばならない。

3、靴 ※2

ゴム底の靴を着用しなければならない。但し、審判が適正と認め、相手チームが合意した場合は、合成樹脂底の靴を使用することができる。

関東オープン連盟規則

※1 出場チームは統一した番号付きのユニフォームを着用する。

対戦チームとユニフォームの色が類似している場合、一方は対照的なTシャツ等でも可能とする。また、全ての選手は、膝を完全に覆うサポーターの着用が望ましい。

※2 ゴルフ・野球・陸上競技用等、危害を与える恐れのある靴は不可。

フットボール用の靴は可とする。但、金属のポイント(クリーツ)は不可。

公式競技規則—P, 8

2、試合開始 ※1

試合時間は32分間とし、各8分間の4つのクォーター（Q）に分け、順番に第1Q、第2Q、第3Q、第4Qとする。全てのQは、ボールがデッドとなるまで終了とならない。

5、チームタイムアウト ※2

各チームは前半、後半各2回のチーム・タイムアウトを使用出来る。

チーム・タイムアウトは60秒間である。

チーム・タイムアウトは出場している選手が審判に申請する。

関東オープン連盟規則

第2、4Qの残り2分間の正式計時(2ミニッツ)も含めて、公式競技規則を原則とする。
(98年秋季大会より)

公式競技規則—P、14

8、スクリーメージキックにおける、レベルに応じた特例

競技レベルに応じた大会特別規則とし、下記の宣言パントを適用できる。

ダウン開始前に、攻撃チームが次のダウンにスクリーメージキック(パント)を行なうことを審判に通告、審判が守備チームにパントを宣言すれば、宣言パントとなる。宣言パントでは、攻撃チーム、守備チームともにボールがキックされるまで、ニュートラル・ゾーンに侵入してはならない。

(反則 攻撃 エンクローチメント 守備 オフサイド 罰則 5ヤード)

関東オープン連盟規則

パントを行なう場合は必ず宣言しなくてはならない。

(反則 パーソナルファール・スポーツマンらしくからぬ行為 罰則 15ヤード)

宣言パントにおいては、審判のレディー・フォー・プレーの宣言後、2.5秒以内に、攻撃チームはスクリーメージキックを行わなければならない。

(反則 不正な試合の遅延 罰則 サクシーディング・スポットから5ヤード)

関西オープン連盟規則

宣言パントではニュートラルゾーンへの進入規制があるが、それに加えてスクリーメージラインから守備側5ヤードまでをニュートラルゾーンとし、進入を禁止する。

(反則 守備 オフサイド 罰則 5ヤード)

(これはパントキックを妨害する目的で、スクリーメージライン際でジャンプしたりする守備チーム選手が攻撃チーム選手と接触することを防ぐことを目的としている。)

公式競技規則—P、20

6、接触における手と腕の使用

全国オープン部門統一規則

6、接触における手と腕の使用に次の項目を追加する。

ホールディングの罰則は10ヤードとする。

第2章タッチ

1、タッチ

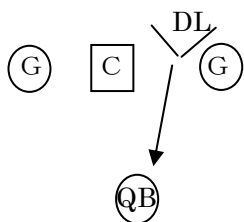
2)–(1) タッチは両方の手のひらすべてが、同時に相手の身体に触れなければならない。(片手ずつのいわゆる追いタッチは認められない。)

関東オープン連盟規則

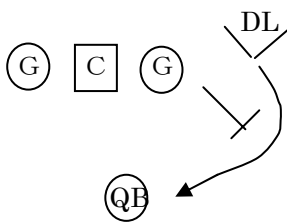
アンダーライン部分を、「手が」とする。

その他

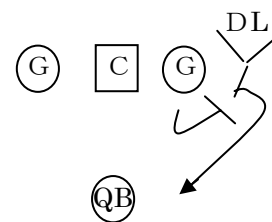
- ① 2点トライを設ける。 公式競技規則 P, 25
- ② ノンコンタクトファールは試合関係者全てに適用する。 // P、22・23
- ③ セフティー、タッチバックの解釈について? // P、25 & 本要綱7、8頁
- ④ 不戦勝、不戦敗は14-0とする。棄権に関する詳細は別途定める要綱規程参照方。
- ⑤ リーグ戦同率の場合は、
 - 1、直接対決の結果
 - 2、当該チーム同士の得失点差の順で決定。
- ⑥ ラインメンへのハンドオフは可とする。
但、センターからQBへ明らかにスナップバックすること。
また、危険なプレーとみなされた場合は反則となる。
- ⑦ ボールデッドの際、ボールキャリアーは速やかにボールを審判に手渡すこと。
- ⑧ ディフェンスのラッシュについて下記を注意のこと。



C、Gがタイトにセットしている場合、DLは強引にCとGの間に入り込むのはDLがCとGとの接触を前提した行為と考えられるので注意すること。



DLがQBに近付く時その進路に対し、Gが横からブロックするのは反則である。



DLがQBに近づくその進路にGが居る場合、DLはGを避けてQBに近付かなければならない。

公式競技規則—P、12 (97年秋季大会よりこちらを採用)

4. キックオフのレシーブ体型

キックオフのボールがキックされる時、レシーブチームは、全員がボールのあるヤードラインから10ヤード手前のヤードラインを超えてはならない。 ※1
(反則 オフサイド 罰則 プレブラス・スポットから5ヤード)

タッチバックか? セフティーか? について

キックオフ・スクリーメージキックで、リターナーが触った（確保した）ボールがエンドゾーン内でデッドとなった場合、タッチバックにするか、セーフティーとするか、ということですが以下のように取り扱います。

「取り扱い」

1. キックされたボールが、インフィールドにいるリターンチームの選手の手に触ってゴールライン後方でボールが地面に落ちた（ボールデッドとなった）場合、すべてタッチバックとする。
2. キックされたボールを、リターンチームの選手がインフィールドで確保した（体勢を取り戻した）後、エンドゾーン内でボールがデッドとなった場合は、セーフティーとする。

「解説」

キックされたボールを、ゴールラインより前方でさわってしまったが、偶然エンドゾーン内に落ちてしまった場合を、セーフティーとするのはちょっとかわいそうな気がします。

また、すべての審判に故意か偶然かを判定させるのは難しいと思われます。

1の場合、偶然か故意かに関係なく（判定せず）、すべてタッチバックとします。

2で、「確保した（体勢を取り戻した）後」と条件をつけたのは、ボールを取った勢いでエンドゾーン内に入ったボールデッドとなった場合と、リターナーの意志でエンドゾーン内に入ってボールデッドとなった場合の区別をつけようということです。

ボールを確保した（体勢を取り戻した）時点でキックプレーは終了し、リターンチームの攻撃に変わったと考えれば、攻撃中にエンドゾーン内でボールデッドとなった場合と同じで、セーフティーとなるわけです。

（例1）

リターナーの頭上を越え、エンドゾーン方向に転がっていったキックボールを、リターナーが押し出す形でゴールラインを越えさせ、エンドゾーン内でボールデッドとなった。

→ タッチバック（故意か偶然か判明しないため）

（例2）

リターナーがエンドゾーン内でボールを確保、リターンしようとエンドゾーン内を何歩か前進したが（エンドゾーンから出ていない）キックチームが目の前まで迫っていたのでニーダウンした。

→ タッチバック（「インフィールドで確保した」が条件であるため。）

（例3）

リターナーが、インフィールドでボールをキャッチ、その勢いでそのままエンドゾーン内に入り転倒した。

→ タッチバック（体勢を取り戻したとは言えないため）

(この場合は、「体勢を取り戻した」としないこととします。)

(例4)

リターナーがインフィールドでボールをキャッチした後(エンドゾーンには入っていない)キッキングチームの選手に追い回され、エンドゾーン内でタッチされた。

→ セーフティー (「体勢を取り戻した後」であるため)

「ルール改正・補足」(ただし、関東オープンのローカルルールとして)

ルールブックの一部削除

「第5編 キック 第1章 キックオフ 8. ゴールラインを越えたキックオフ」と

「第5編 キック 第2章 スクリーメージキック 7. ゴールラインを越えたキックオフ」にある「レシーブチームに触られることなく」を削除します。

レシーブチームが触った後でもタッチバックとする判定があるため。

ルールブックに追加

「第9編 得点 第4章 1. セーフティー (4) その他、レフリーがセーフティーと判断した場合。の例として、

キックオフまたはスクリーメージキックで、キックされたボールを、リターンチームの選手がインフィールドで確保した(体勢を取り戻した)後、エンドゾーン内でボールがデッドとなった場合。

を加える。規則的には、キックオフ、スクリーメージキックで、セーフティーになる場合を規定しただけで、それ以外はすべてタッチバックと判定することになります。